



公益財団法人 オイスカ

関西研修センター

〒563-0101

大阪府豊能郡豊能町吉川120

TEL : 072-738-3699

FAX : 072-738-3901

E-mail : oiscaktc@oisca.org

植林フォーラム 28

2025/08/23~08/30

PHILIPPINES ABRA



OISCA KANSAI  
活動報告書



フィリピン植林フォーラム2018  
～活動記録用・詳細スケジュール～

| 日付    | 時間    | 行程                | 備考                     |
|-------|-------|-------------------|------------------------|
| 08/23 | 07:00 | 関西国際空港 集合         | 17名【14名+引率3名】          |
|       | 09:40 | 搭乗                | フィリピン航空407便            |
|       | 10:40 | 離陸（関西国際空港）        |                        |
|       | 13:20 | 着陸（ニノイ・アキノ国際空港）   | ※ここから現地時間              |
|       | 14:08 | バス移動              |                        |
|       | 14:31 | Heritage Park 墓参り |                        |
|       | 14:55 | USA墓地             |                        |
|       | 15:24 | 墓地出発              |                        |
|       | 15:40 | セントジェイルズホテル 到着    |                        |
|       | 18:54 | 夕食「ノースポーク」中国料理    |                        |
| 08/24 | 20:30 | ホテル到着             |                        |
|       | 06:00 | 朝食                |                        |
|       | 06:45 | ホテル 出発            |                        |
|       | 08:52 | トイレ休憩             | TPLEX Southbound Drive |
|       | 11:20 | 昼食「MAX」レストラン      |                        |
| 08/25 | 12:08 | レストラン 出発          |                        |
|       | 15:45 | アブラセセンター 到着       |                        |
|       | 19:00 | 夕食                |                        |
|       | 07:00 | 朝食                |                        |
|       | 08:00 | アブラセセンター 出発       |                        |
|       | 08:30 | マーケット 到着          |                        |
|       | 09:00 | 出発                |                        |
|       | 09:47 | ヴィクトリアパーク 到着      |                        |
|       | 10:15 | 出発                |                        |
|       | 10:38 | アブラセセンター到着        |                        |
| 08/26 | 12:00 | 昼食 アブラセセンター       |                        |
|       | 13:30 | アブラセセンター 出発       |                        |
|       | 14:08 | タガイタイ 到着          |                        |
|       | 14:15 | 植林開始「新 東洋紡の森」     | ナラ、アングー、ラングータン 計300本   |
|       | 16:01 | ホール 到着            | おやつタイム                 |
|       | 17:05 | アブラセセンター 到着       |                        |
|       | 19:00 | 夕食 アブラセセンター       |                        |
|       | 07:00 | 朝食 アブラセセンター       |                        |
|       | 08:30 | アブラセセンター 出発       |                        |
|       | 09:02 | パンカガン プリマリ小学校 到着  | CFP校                   |
| 08/26 | 09:20 | 植林開始              | カラマンシー50本              |
|       | 10:07 | ウェルカムセレモニー        | おやつタイム                 |
|       | 11:20 | パンカガン プリマリ小学校 出発  |                        |
|       | 11:55 | アブラセセンター 到着       |                        |
|       | 12:20 | 昼食 アブラセセンター       |                        |

| 日付    | 時間    | 行程                         | 備考                      |
|-------|-------|----------------------------|-------------------------|
|       | 14:27 | アブラセセンター 出発                |                         |
|       | 14:57 | ラガギラン ネクスタの森 到着            |                         |
|       | 15:00 | 植林開始「ネクスタの森」               | ユーカリ、ナラ、ティクトゥリー 計250本   |
|       | 15:57 | ネクスタの森 出発                  |                         |
|       | 19:00 | 夕食 アブラセセンター                |                         |
| 08/27 | 06:00 | 朝食 アブラセセンター                |                         |
|       | 06:58 | アブラセセンター 出発                |                         |
|       | 08:30 | トイレ休憩                      |                         |
|       | 09:25 | カブガオホール 到着                 |                         |
|       | 09:37 | 植林開始 「中国電力の森」              | マングローブ 1000本            |
|       | 11:00 | おやつタイム                     |                         |
|       | 11:26 | カブガオホール 出発                 |                         |
|       | 11:45 | カブガオ市長宅 訪問 昼食              | Mr.Cobangbang           |
|       | 12:48 | カブガオ市長宅 出発                 |                         |
|       | 13:20 | ビガン 到着                     |                         |
|       | 13:30 | 馬車乗車体験・買い物・観光              |                         |
|       | 14:49 | ビガン 出発                     |                         |
|       | 16:23 | アブラセセンター 到着                |                         |
|       | 18:30 | 国会議員及び植林参加者 歓迎会            |                         |
| 08/28 | 07:00 | 朝食 アブラセセンター                |                         |
|       | 08:15 | アブラセセンター 出発                |                         |
|       | 09:31 | ナバカンファーマーズマーケット            | 買い物                     |
|       | 09:42 | 出発                         |                         |
|       | 10:00 | サンステバンビーチ 到着               | 海水浴・昼食                  |
|       | 14:23 | サンステバンビーチ 出発               |                         |
|       | 15:53 | アブラセセンター 到着                |                         |
|       | 19:00 | さよならパーティー                  |                         |
| 08/29 | 03:56 | アブラセセンター 出発                |                         |
|       | 10:23 | トイレ休憩 昼食 「バーガーキング」         |                         |
|       | 11:50 | 出発                         |                         |
|       | 13:15 | セントジェイルズホテル 到着             |                         |
|       | 17:33 | ホテル 出発                     |                         |
|       | 17:59 | レストラン 到着 夕食「大阪MANMARU」 日本食 |                         |
|       | 19:38 | レストラン 出発                   |                         |
|       | 20:00 | ホテル 到着                     |                         |
| 08/30 | 08:43 | ホテル 出発                     |                         |
|       | 09:30 | マニラ観光                      | ホセ・リサール公園<br>サンチャゴ要塞・教会 |
|       | 11:25 | 出発                         |                         |
|       | 11:55 | ニノイ・アキノ空港 到着               | チェックイン                  |
|       | 14:20 | 離陸                         |                         |
|       | 19:04 | 着陸 関西国際空港                  | 現地時間                    |
|       | 19:40 | 解散                         |                         |

# 今年の植林の成果



| 日付   | 場所                   | 樹種                    | 本数    |
|------|----------------------|-----------------------|-------|
| 8/25 | タガイタイ<br>新 東洋紡の森     | ナラ<br>マンゴー<br>ランブータン  | 300本  |
| 8/26 | ネクスタの森               | ユーカリ<br>ティクトゥリー<br>ナラ | 250本  |
| 8/27 | サルパサップ海岸<br>ダルダラップ海岸 | マングローブ                | 1000本 |



合計  
**1,550本**



## 写真による活動記録



## タガイタイ 新・東洋紡の森



## パブリークマーケット



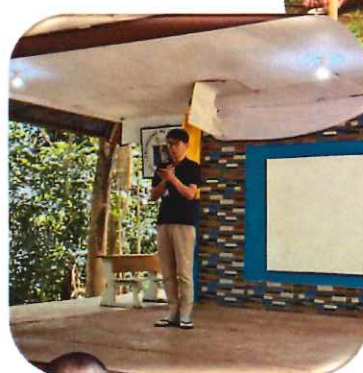
## ヴィクトリアパーク



I ♥ Philippines!



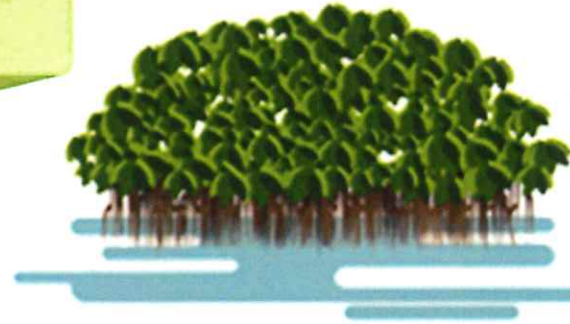
# パンパガン プリマリ小学校 CFP校 植林



# ネクスタの森



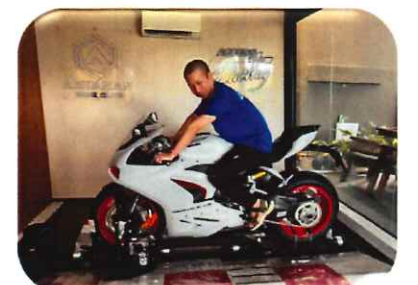
## 中国電力 マングローフ



## カフガオホール



## カフガオ知事宅訪問



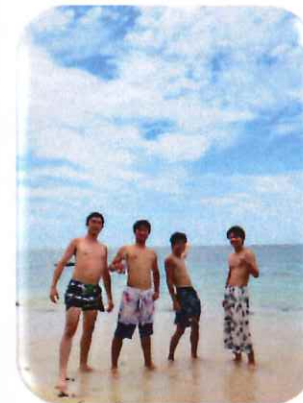
## ビガン観光



## 国会議員ウェルカムパーティー



## Urasa Major Beach



## さよならパーティー



## マニラ観光



思い出

中国電力ユニオン 津山支部  
河本 真利



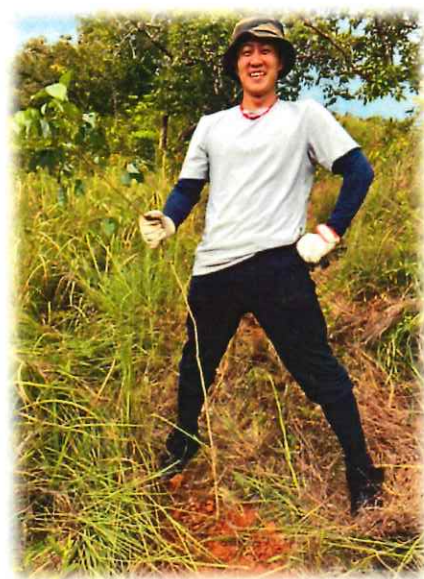
まず始めに今回のプロジェクトに参加させていただけて本当に感謝の気持ちでいっぱいです。私は、入社1年目から異国の地「フィリピン」でボランティア活動があることを存じていたので、参加できる機会をうかがっていました。そして、今年ついに参加することが出来ました。

初めての海外、出会う人、言語に始めは不慣れであったため、とても緊張していました。しかし、一緒に活動をした日本の方々と優しいフィリピンにあるオイスカのアブラ研修センターの方々や部落の方々に支えられて、楽しくボランティア活動に励むことが出来ました。言語がうまく通じない中で、皆で協力しながらマングローブなどの植林活動をした光景は、言葉にすることが難しいような達成感で満たされました。

また、植林活動の中で現地のこども園でフィリピンの子供たちと触れ合う時間は、国が変わっても無邪気な子供の可愛らしさは変わらないことを改めて実感しました。私になつてくれていた一人の少女がいましたが、その子は別れ際にとても悲しい表情をしていたので、出会って数時間にも関わらずとても寂しい気持ちになりました。またどこかで出会いたいと思っています。

ボランティア活動だけではなく、世界遺産「ビガン・シティ」の観光やビーチで海水浴もとても楽しい思い出となりました。暑い日差しによって汗が滴る中、ビガン・シティにあるレストランで飲んだ日本とは違う味のアイ스티ーは忘れられません。（酸味がとても強かったですが、のどが渴いていたので何とか飲みました（笑））

正直なところ停電や断水が起きたので、日本のようにインフラが整っているとは言えないフィリピンでの生活で疲労が溜まった日もありました。ですが、毎日みんなが笑顔で生活していたので、元気をもらうことができました。そして、最後まで活動をすることが出来ました。関係者の皆さま本当にありがとうございました。また、他のボランティア活動に参加したいと思いました。



中国電力労働組合 東広島第二支部  
沖村 成

初めに、今回の植林フォーラムに参加し貴重な体験ができ、人として大きな成長ができたと感じております。人生で初の海外であり、現地での物騒なニュースもありで最初は1週間と長い期間で、不安に感じていましたが、終わってみるとあっという間で、とても楽しい期間を過ごすことができ、終わってしまったことが今になってとても寂しく感じております。

植林フォーラムを通し、まず思ったことは、インフラ設備の違いです。アブラの研修センターに到着した初日にスコールによる停電と水道が止まるサプライズがあり、日本のインフラ設備は整っているのだと再認識しました。ですが、そのおかげで参加者の方々と仲を深めることができました。生活環境では、デルさんやデルさんの奥さんをはじめ、研修生の方々に温かく歓迎していただき、毎日、満腹になるほどのおいしいご飯を食べることができ幸せでした。感謝の言葉もございません。

植林では、7泊8日の期間の中で、カラマンシーやマングローブ等、様々な種類の苗木、合計1600本を植えました。その中でも印象に残っているのは、CPF校(『子供の森』小学校)に訪問し、子供たちと一緒に植林をしたことと中国電力の森でマングローブを植えたことです。CPF校では、本数50本と少ない物量ではありましたが、子供たちに植え方を教えてもらいながら、一緒に楽しく植えることができました。また、その後の歓迎パーティーでは、初めて会った私たちに対して緊張することなく接してくれて、すぐに仲良くなることができました。あの子たちの笑顔に私のハートは射抜かれました。また、会いたいです。

中国電力の森では、マングローブの苗、計1000本を全員で協力し植えました。私ははじめ、マングローブは何のために植えるのだろうと思っていましたが、マングローブがあるおかげで、自然災害の被害を抑えているという話を聞き、マングローブ植林の必要性を理解することができ印象に残っています。

最後になりますが、今回のフォーラムに参加する機会を与えていただいた関係者の皆様、フォーラムを安全に楽しく、多くの体験をさせていただいたオイスカ様、参加者の皆様、アブラ研修センターの皆様、本当にありがとうございました。皆様と過ごした期間は私にとって、大切な財産となったこと、間違いありません。



中国電力労働組合 山口支部

平野 奨悟

初めての海外ということで、様々な面で不安もありましたが、一緒に参加したメンバー、スタッフや現地の研修生に恵まれ、実りある最高の思い出となりました。

3日間の植林活動では、雨に打たれながら作業することが多く、滑ったりずぶ濡れになったりと、良い条件ではありませんでしたが、一緒に活動した現地の子供たちのまぶしい笑顔、圧巻な大自然の景色や参加したメンバーに助けをもらいながら、楽しく安全に植林活動を行うことができました。

子供の森計画箇所の小学校では、20年前に植えられた苗木が、今では30m弱まで成長し、子供たちの遊び場になっている様子を目にしたり、中国電力ユニオン植林地では、過去の先輩方が植えられてきたマングローブが意気揚々と生い茂る姿を見て、今回を含め過去からつないできた“植林”という名のバトンが、現地の人々の生活を守る、重要な役割を担う活動であることをひしひしと感じると共に自然環境を保護していく必要性を改めて認識することができました。そして、僕たちの活動がフィリピンという国の自然環境を守る手助けになっていることを実感し、嬉しく思いました。

研修期間中に過ごしたアブラ研修センターでは、初日から停電するというアクシデントもありましたが、現地の研修生の温かい歓迎会に始まり、食事や生活面で驚くほど手厚いサポートをしていただきました。毎日準備していただいた料理はとても美味しく、今でも忘れられません。加えて、一緒に参加したメンバーで毎晩遊んだ“タイムボム”や何気ない会話を今でも鮮明に覚えています。

その他にも、フィリピンの町々で家畜が放牧されており、行く先々で目にし、身近な存在に感じました。日本では当たり前提供される料理ですが、改めて命の大切さを感じるきっかけとなりました。その他にも、訪問先で一緒に踊ったダンスやおもてなしの料理など、終始そのフレンドリーな国民性に触れ、心温まる学びが多く、実りある研修でした。

また、フィリピンについて事前情報なしに肌で感じたことを大切にすることをサブテーマにし臨みました。世界遺産である「ビガン歴史都市」などの観光やパブリック・マーケットでのショッピング、レストランでの食事、「サンステパンビーチ」での海水浴や現地の方々や研修生とのコミュニケーションを通じて、日本との違いに驚くことが多々ありましたが、何よりフィリピンの歴史、文化や生活に触れることができ、普段では体験できない人生において貴重な経験を得られたと感じています。

今回参加した植林フォーラムを通して、日本では決して味わえない多くの感動と貴重な経験をし、『人』として大きく成長することができました。植林フォーラムに関してサポートしていただきましたみなさまと貴重な参加の機会を与えてくださった関係者の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

今回の貴重な経験や一緒に参加したメンバーとのつながりを大切にこれからの日々を大切に過ごしていきたいと思います。

中国電力ネットワーク株式会社山口ネットワークセンター配電運営課 平野奨悟

(すみか先生お墨付きのムードメーカーより)



植林フォーラムに参加して



中国電力労働組合 出雲支部  
和田 衛

今回、初めて海外での植林フォーラムに参加しました。出発前は緊張もありましたが、清水所長をはじめスタッフの皆さまや参加メンバーのおかげで、約1週間にわたり楽しく充実した活動を行うことができました。

植林活動では地元の方々と一緒に作業しました。言葉は通じませんでしたが、協力し合う中で一体感を持って取り組めたと感じています。今回植えた木には、果実を実らせるものや自然災害から守るものなどがあり、各地域のニーズに沿った植林が行われていることを知りました。また、数年前に植えられた木が立派に育っている姿を見て、この活動が長い年月をかけて続けられてきたことを実感しました。

活動中には、地元の方や研修生、小学生との交流もありました。英語が十分に話せず、思いをうまく伝えられないこともありましたが、皆さんが温かく受け入れてくださり、楽しい時間を過ごすことができました。特にアブラ研修センターの研修生の皆さんとは、交流パーティーや植林活動、食事などさまざまな場面で関わりを持つことができ、本当に楽しかったです。研修生の皆さんが朝早くから家畜の世話や炊事に取り組む真面目な姿を見て、私自身も見習わなければならないと感じました。

また、植林活動の前後にはフィリピンの史跡を訪れ、歴史や第二次世界大戦の悲惨さに触れる機会がありました。戦争の悲惨さを忘れず、平和を次の世代に受け継ぎ、戦争のない世界を築くことの大切さを改めて感じました。

この活動を通じて、植林は一朝一夕で成果が出るものではなく、長い年月をかけて取り組むことが大切だと学びました。山を登ったり川を渡ったりと大変な場面もありましたが、地元の方や子どもたちと一緒に楽しく植林でき、「参加して本当に良かった」と思える1週間となりました。今後は、日常生活の中でこれまで何気なく見過ごしていた募金やボランティア活動にも積極的に関心を持ちたいと思います。

この1週間で出会ったすべての皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



中電環境テクノス 株式会社

谷野 聖和

8月下旬。日本はうだるような暑さ。

私はそんな日本を脱出し、心地よい木漏れ日とそよ風、スコールと雷鳴、両極端の天気が交互に訪れるフィリピンにいました。渡航目的？ 植林です。

「日本の若者がフィリピンに行き木を植える」この活動では初対面の若者14人が7泊8日で共同生活を送ります。私は高校の修学旅行をもう一度やり直した気分でした。

ここでは今回の活動を通して学んだことを記し、青春の1ページであることを示す備忘録にしようと思います。

### 植林活動の意義を学ぶ

私はこの活動の前に、植林とはその土地を緑化するために行うもので、現地の方は私たちの労働力に期待していると思っていました。そして私は「可能な限り多くの木を植える」を目的としていました。

植林初日、現地の方は植林の荷物を全て準備し、運び、率先して植林をしていました。そして植林が終わると料理を振舞い何度も私たちにお礼を言いました。

まだ初日でお礼を言われるほどの働きはできていないよ・・・と思うと同時に今回の活動の目的は単なる「労働力の提供」だけではないと気付きました。

現地の方は異国の若者がこの地に来て、植林をして、いずれこの活動が異国の地で共有され、両国の友好の懸け橋になる可能性があるからお礼を言っているのではないかと。となると、この活動は「国と国を繋ぐ友好関係の構築」なのだと思います。

それから私は、なるべく現地の方とお話しをするよう努めました。「Do you like Japan?」伝わらない英語もありましたが、少なくとも私はその方と友好関係を築きたく接しました。

いつか大きな友好関係になることを信じて。

### フィリピン大学生の意欲に刺激を受ける

「農業をしに日本に行きたい。いずれフィリピンに帰ってフィリピンの農業を発展させたい。」 翻訳アプリがそう言いました。目の前にいるのはフィリピンの男子大学生。

自分はこれまでの人生の選択の中で日本の発展のために何かを考えたことがあったでしょうか。

フィリピンの大学生と話すと誰しもが日本での夢と憧れを持っていました。

そんな大学生が日本に来た時に失望してほしくない。日本で働く者として日本をより良い受け入れ場所にしたい、フィリピンの大学生に誇れるよう真摯に仕事に取り組みたいと感じました。

### フィリピンの貧困の現状に触れる

空港があるのは都会 マニラ。ビル街を歩いていると、幼い子供が私に近づき無表情で手のひらを出してきました。「お金が欲しい」表情は無くてもそう読み取れました。それを少し離れて見ている親。そんな子供は一人ではありませんでした。小学校の植林では元気な子供達が笑顔で迎えてくれました。同じ国の子供達です。

この現状を前に現地では何もできませんでした。

今、自分に何ができるのか。まずは、この現状を少しでも多くの人に共有することが大事だと考え、弊社内の広報紙に記し展開する予定です。

それから、2026年3月に開催する大阪マラソンのチャリティ団体にオイスカが加入していることを知り、活動参加者の3人と共に募金も兼ねてエントリーしました。

そして次には・・・これを備忘録としたい理由はこの気持ちを風化させたくないからです。

### 終わりに

この自分勝手な備忘録が、この活動とフィリピンの状況を知る機会になるとしたら、なによりも嬉しいです。

### 「自然と人から学んだ植林活動」



東洋紡労働組合  
山本 響

8月23日～30日にかけて、東洋紡労組の一員として、フィリピン植林フォーラムに参加しました。主な活動として、(1)「東洋紡の森」計画 第二次計画（植林活動・オープニングパーティ）、(2)オイスカ「子供の森」計画（見学・児童との交流）、(3)マングローブの植林活動を行いました。

#### (1)「東洋紡の森」計画 第二次計画（植林活動・オープニングセレモニー）

植林地：アブラ州 タガイタイ

実績：ナラ、ランブータン、マンゴーの苗合計300本

今年より新天地に移転した東洋紡の森の入口には、現地の住民の方々が出迎えてくれており、一緒に森に入りました。粘土質でぬかるんだ道を進み、急流の川を渡り、角度の激しい坂を登った先に東洋紡の森があります。今回は、ランブータンやマンゴーなど果実のなる木の植林を行い、どんよりとした曇り空が広がっていましたが、地元の方々と私たちの話し声や笑顔が響き渡り、非常に明るい雰囲気の中で作業を終えることが出来ました。植林後には、オープニングセレモニーを通じて、新しい看板の披露と現地の子供たちに勉強道具セットの贈呈を行いました。

#### (2)オイスカ「子供の森」計画（見学・児童との交流）

植林地：CFPバンカガンプリマリ小学校

実績：カラマンシーの苗合計50本

現地の小学生とペアになり、酷暑の中でしたが、子供たちと交流しつつ、その笑顔にパワーをもらいながら植林を行いました。植林後には、子供たちに歌を披露していただき、学校の先生方とダンスを一緒に踊り、交流しました。

#### (3) マングローブの植林活動

植林地：イロコス・スル州 カブガオ

実績：マングローブ合計1000本

一面にマングローブが広がる海で植林を行いました。透き通るほど水が綺麗に保たれているのは、マングローブの働きで水が浄化されるためです。水深が浅く、砂を掘って、穴を掘りやすく、あっという間に植林を行うことが出来ました。

今回の植林活動を通して、自然資源の重要性を改めて感じました。私たちが自然を大切に責任を持つこと、また一人一人が自然の価値を理解することで、地球上の資源を大事にすることができると考えます。どんなものであっても、限られた資源から成り立っており、ありがたく大切にすることを、心に留めておきたいです。

最後になりますが、今回の植林フォーラムに参加した方々、研修センターのデルさんと研修生、サポート頂いた現地の住民の方々に心より感謝を申し上げます。メラミ・サラマッポ。

## 「世襲される渡河」



東洋紡労働組合  
八杉 憲彰

海外渡航は6年ぶり2回目であった。そして今回はアメリカなので、アジアおよび発展途上国と言われる地へ行くのは初めてであった。わざわざこれを書いたのは、読者諸賢の中にある、このフォーラムに参加する心理的ハードルを少しでも下げたいためである。「参加者は皆、海外ボランティア経験者」や「毎年の様に海外へ行っている様な人達ばかり」といった類の先入観や心配は全く不要で、今回の参加者14人の中には初めての海外だという方も2名いたし、ボランティア経験者はごく少数であった。かくいう自身も、フィリピンや植林に強い興味があったという訳ではないというのが正直なところで、むしろこのフォーラムでしか行けないような、いわゆる「観光地」ではないところで土着の文化や人と交流できるところに強い関心を持った。実際、家族や仲間と「観光地」に行く事では得られない貴重な体験ができたし、人間としての思考の幅が拡張したと感じている。

到着してまず初めに海外を感じたのは、トイレにペーパーを流せない点である。また、ホテル近辺で子供や女性に金銭を要求されたり、恐らくコピー品と思われるROLEXを売りつけようと男性から話しかけられるのも日本では珍しいだろう。結果的に危ない目にあう事は1回も無かったが、このフォーラム直前にマニラで物騒な事件が起きていたため、やはり日本と同じ感覚では居られないという認識は持ち続けていたし、それだけでなく、外出時は必ず3人以上で行動するように指示が出た。すなわち、①ケガ等をした人、②付き添う人、③助けを呼びに行く人である。一方、1泊目のマニラ市マカティのホテルからバスで9時間かけて移動した植林の目的地であるアブラ州はとても穏やかで、この3人ルールを厳格に守る必要も無いレベルであった。総じて今回の行先の中では、マニラが最も歩くのに気を張るエリアであった。オイスカのアブラ研修センターでは、現地の研修生たちが歓迎してくれた。彼らのほとんどは20代前半のアブラ出身のいわゆる地元民であり、日中は農業(主に男性)や売店のスタッフ(主に女性)を勤めて夜に日本語の勉強をしているとの事であった。彼らは皆、穏やかで優しく、また素直であった。会うと必ず「おはようございます、先生」「こんにちは、先生」「こんばんは、先生」と挨拶してくれた。研修センターでの食事は全て研修生が手作りしてくれた。しかもビュッフェ形式で1食あたり5種類程度出してくれたにも関わらず、同じ品目が出される事はついぞ無かった。これは地味に聞こえるかもしれないが、慣れない土地で過ごす我々にとってモチベーション維持に重要な事であった。共に食事をし、ゲームをし、日本語&英語で交流した時間は、もしかするとこのフォーラムで得られた最大の財産なのかもしれない。

植樹初日は研修センターから車で30分程度の東洋紡の森であった。今回が「二代目 東洋紡の森」の始まりであったため、日本人参加者は引率者を含めてどんな場所か知らない状態で向かった。20年間の植樹を終えて、昨年フィナーレを迎えた「初代 東洋紡の森」は靴で川を渡る必要があった(当然くるぶし上までずぶ濡れ)との事で、我々は濡れずに済んでラッキーだという話を皆でしながら進んで行くと、明らかに膝下まで浸かる深さの川に当たった。引率者ですら怯んでいたが、当然橋など無い。滑ったら膝下だけでは済まない渡河を何とか全員でクリアしたが、その後の山道もこれがまた水気を多分に含んでおりよく滑る。数人が滑り、服を泥まみれにして悲鳴を上げている中、苗木を背負ってビーチサンダルで運んでくれている男性研修生は涼しい顔をしているし、同行してくれた現地集落の子供達はこれまたビーサンで、わざと足を滑らせる遊びをしながらどんどん進んでいく。滑らずについて行くので精一杯であった。到着した植樹地では研修生や子供たちと共に草を刈りながら進んで穴を掘り、植えていった。日本でも植樹をした経験は無かったが、なんとかやりきった。「二代目」が20年後、森になっていることを祈りつつ、再びずぶ濡れ渡河をして帰った。

植樹2日目の午前には小学校へ赴き、児童たちと協働して敷地内へ植樹した。とても楽しく、満ち足りた時間であった。彼らは植樹の意味を未だ理解できていないかもしれないが、日本人と協働作業をした記憶が残ってくればそれで充分だと思う。午後はネクスタの森で結構な急勾配の斜面に植えていった。研修生はもちろんビーサンである。序盤にスコールが降り出し、全員雨具を装着しての急斜面植樹となった。なんとか全員滑らずに植樹を終えることができた。が、帰り道1名が派手に転んで白い服が茶色の服になっていた。次回以降の参加者には、常に着替えを携帯する事を推奨する。

植樹3日目(植樹最終日)は中部電力のマングローブ林であった。これまでとは打って変わって膝まで浸かる海での植樹である。天候も良好で、絶景の中での植樹は強く印象に残った。なお、初日に渡河を2度していた事もあり、足がずぶ濡れになることへのハードルは皆無であった。怪我の功名というやつである。

植林完了後にも世界遺産ビガンやプライベートビーチでの海水浴へ行くことができ、満足度高く終わった。ここまで触れて来なかったが、他の日本人参加者全員と会社の垣根を越えて仲良くなれる点も貴重な機会である。1週間も一緒にいると、会社の細かな情報も交換する事ができ、勉強になる事だろう。

最後に、参加意欲が少しでもある読者諸賢へは是非参加する事を勧めたい。この1週間は、一生の財産になる。

「人の温もりを感じた植林フォーラムin フィリピン」



東洋紡労働組合  
吉竹 司

1週間過ぎてしまえばあっという間の期間で、非常に濃厚で素晴らしい経験をする事が出来ました。行く前は、食べ物や環境の不安が色々ありました。しかし、食事は大変美味しく、自然に囲まれてとても落ち着ける環境でした。また、アブラ研修センター到着初日に停電し、照明無し、シャワーや手洗い無しで朝まで過ごし、日本ではなかなか経験しないことで、水や電気の大切さやハプニングにも動じずに行動することが大切だと学ぶことが出来ました。

今回の植林フォーラムに参加し、一番実感したことは、人は支え合って生きているということです。何故、そう感じたかは、これからまとめていきます。

1つ目、アブラ研修センターでは、研修生（日本語を勉強し、今後日本に技術を学びに行く方々）が朝昼晩毎日、とても美味しいご飯を作り、ふるまって頂きました。そのおかげで元気に、植林フォーラムを終えることが出来ました。また、東洋紡の森で植林したランブータンも食卓に並び、ブドウの様な味で、とても美味しかったです！今回、植林したランブータンが大きく育ち、色々な所で食べられる様になれば良いなと思います。

2つ目、植林活動は、山や海で作業、時にはスコールに打たれと過酷な環境でした。しかし、現地の大人や子供達・研修生は、私達を受け入れて頂き、笑顔でとてもエネルギーギッシュな姿に、自分自身かなりパワーをもらえました。その中で訪れた学校でのエピソードがとても印象に残っています。20年前に植林したカラマンシーが大きく育っており、そこにハンモックを設置して、夏場の避暑地としてそこで授業を受けているとお聞きしました。また、その20年前に一緒に植林した子供達はその学校で教師となり、活動の大切さを伝え、継続していると聞き、人の思いの循環に感動しました。引き続きこの活動が継続していくことを祈り、20年後に訪れたい！と感じました。

3つ目、パーティーや植林活動をした後の感謝で、ダンスや歌を披露して頂いたことは、非常に嬉しく感動しました。また、「一緒に盛り上がりましょう！」と途中から僕らも混ざり、笑顔で楽しくダンスしたことは、とても良い思い出です！また、研修生とのお別れ会の時にみんなで「トレインじゃんけん」して、しっかりと盛り上がり一体感も有って、楽しさと喜びにあふれました。

最後に一緒に行ったメンバーやオイスカの方々、フィリピン現地で関わった全ての方にメラミ・メラミ・サラマップ。マハル・キタ。（大変ありがとうございます。愛しています。）

11歳の女の子に告白されたので、まだまだ若いなぁと感じています笑

「新・東洋紡の森」 新たな歴史の始まり



東洋紡労働組合  
辻 智子

「東洋紡の森」の歴史は、2002年にアブラ州サラバダン村で始まりました。「参加者の努力を形に残したい」「現地の方々とともに環境保護に貢献したい」という思いからスタートしたこの活動。当初は木もなく痩せた山でしたが、植林を続けた結果、立派な森に育ち、清らかな水も湧き出し、生活が豊かになったと村から感謝状をいただきました。そして2024年、第一次活動を締めくくることができました。

今回私は、新たな植林地であるアブラ州タガイタイで「東洋紡の森・第二次活動」を始めるため、また長期にわたり活動を支えてくださる現地の方々へご挨拶するために参加しました。

「新・東洋紡の森」に向かうには登山が必要で、途中、ひざ下までの川を靴のまま渡らなければなりません。約20分の道のりを歩き、私がデザインし現地の方々に制作していただいた看板が目に入った瞬間、胸がいっぱいになった感動を今も鮮明に覚えています。

植林を終えた後には、東洋紡労組代表としてタガログ語と英語で現地の皆さんへ挨拶をしました。また、子どもたち一人ひとりに文房具を贈ると、幼い子が「ありがとうございます」と美しい日本語でお礼を言ってくれました。その瞬間、自分のたどたどしい挨拶が少し恥ずかしく感じられました。

現地では、日本人ボランティアが植林を行い、住民が日々手入れを続けていきます。その取り組みを通じて、環境保護の大切さと、植林が暮らしを豊かにすることを子どもたちに教えていくと聞き、私もこの活動を責任をもって続けていかなければならないと強く感じました。

さらに、オイスカ研修センターで出会った研修生の皆さんは「日本で技術を学び、家族のために働きたい」と強い想いを語ってくださいました。その努力が報われる日が来ることを願い、私も微力ながら協力を続けていきたいと思っています。アブラ州での経験は、自然と人とのつながりを改めて考えるきっかけとなり、私にとって忘れられない時間となりました。

最後に、このフォーラムで出会った方々の笑顔、そして重量オーバーを心配するほど買い込んでしまった研修センターのドライマンゴーの味を、私は決して忘れません。



ネクスタ大阪支店 総務部

澤邊有紀



8月23日から30日までフィリピン植林フォーラム28に参加してきました。

8月23日午前7時、関西国際空港に集合。オイスカ関西研修センターの清水所長と娘のすみかさん、ヒットカンパニーリミテッドの山崎所長、京セラ、東洋紡、中国電力、ネクスタの総勢17名で8日間のフォーラムが始まりました。

関西国際空港からフィリピン・マニラへ約4時間のフライトの後、バスでマカティへ移動。道中ではアメリカン・セメタリーを訪れ、第二次世界大戦に関する映像を視聴しました。ホテルに到着後、夕食は近くの中料理店へ。テーブルいっぱいの料理に驚きつつ、皆さん気持ちよくたくさん召し上がっていて、まるでフードファイトのようでした。

2日目。アブラ研修センターまで、バスで約8時間の移動。長時間の移動や車内の寒さを心配していましたが、座席の座り心地も良く、防寒対策も万全だったため、車窓から初めて見るフィリピンの街並みを楽しんでいるうちに、あっという間に到着しました。

夕食は研修センターの皆さんが用意してくださったフィリピン料理。現地の食事が口に合うか不安もありましたが、どれも大変美味しく、一口食べるごとに「美味しい！」と声が漏れました。

夕食後は研修生との交流会。日本語や英語でたくさん話しかけてくれました。ネクスタ工場に来る予定のジェインさんとも話すことができ、日本での再会が楽しみです。

その夜、激しい雨の中で突然の停電が発生。スマートフォンや懐中電灯、ローソクで明かりを確保し、水も出ない状況で一晩を過ごしました。翌朝には水が復旧しましたが、実は研修センターの皆さんが早朝から水を運んでくださっていたことを後で知り、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

3日目。午前中はパブリック・マーケットを観光し、午後はいよいよ植林活動です。訪れたのは「東洋紡の森」。畦道を進み、予定外の川を渡って植林地に到着。研修生や地元の方々と一緒に穴を掘り、ランブータンやマンゴーの苗木を植えました。滑りやすい道を慎重に歩く私たちとは対照的に、研修生や子どもたちは笑顔で軽やかに動き回り、生命力の強さを感じました。

4日目。午前中はCFP校を訪問し、子どもたちと植林活動。元気いっぱいの子もたちとハイタッチを交わし、過去の植林活動で植えられた木にかけられたハンモックの場所で触れ合いました。その後、1人の参加者に対して数人の子もたちがグループを組み、親御さんと一緒にカラマンシーの苗木を元気よく植えてくれました。植林後は子どもたちの歌や親御さんのダンスが披露され、男性陣がゲリラ参加するなど、温かい交流の時間となりました。

午後は「ネクスタの森」へ。到着直後に予報通りの激しい雨。

丘のような急斜面の地形の場所で、雨が降りしき中、カップを装着し研修生や地元の方々と一緒にナラやティクトゥリーなどの苗木を植えました。ぬかるんだ足元にも関わらず、どんどん上に登っていく参加者の姿に勇気づけられ、私もどんどん登って行きました。植え終わると、皆で声を掛け合いながら無事に下山。今は丘のようなこの場所で植えた木が大きくなり、森になっていくのが楽しみです。

5日目。午前中は「中国電力ユニオンの森」で最後の植林活動。ふくらはぎほどまで浸かる海の浅瀬を進み、植林地へ。等間隔にある印の場所に釘のようなもので穴を掘り、オクラのようなマングローブの苗を植えて行きました。海に植物を植えるという貴重な体験に心が躍り、苗が立派なマングローブの木に育っていくことを想像するとワクワクしました。

その日、日本から視察に来られた谷公一議員、井上信治議員をはじめとする皆様とも交流し、ガブガオ市長のご自宅で昼食をご一緒しました。

午後は世界遺産「ビガン歴史都市」を観光。スペイン統治時代の面影が残る街並みを馬車で巡り、自由散策と買い物を楽しみました。

夜はオイスカ研修センターで議員の皆様へのおもてなしパーティー。地元の子もたちのダンスや歌に加え、私たちもダンスの輪に加わり、楽しいひとときを過ごしました。

6日目。サンステバンビーチで海水浴。透き通った青い海と綺麗な空。到着してその景色を見るだけでも心が躍りました。同行してくれた研修生とビーチボールを何回続けられるか数えながら、一緒に楽しみました。

研修センターでの最後の夜は、研修生の皆さんがお別れパーティーを開いてくださいました。この日も美味しい料理をたくさん用意してくださり、清水所長とすみかさんがそうめんを茹でてくださるサプライズも！

食事後は研修生との交流会。全員でじゃんけん列車やけん玉で遊び、Kiroroの歌を合唱し、フィリピンの曲も披露してくださり、楽しい時間はあっという間でした。じゃんけん列車で勝った時やけん玉が成功した瞬間の研修生の皆さんの楽しそうな顔は忘れられません。

7日目。午前4時出発でバスに乗り、マカティのホテルへ。研修生が私たちよりも早起きして作ってくれたお弁当を受け取り、出発。

丘や川沿いで放牧されている牛やヤギ、道路わきの露店やカラフルなお店、たくさんのトゥクトゥク。

この7日間で見えてきたフィリピンの景色を改めて感慨深く眺めながら、マカティへ向かいました。

夕食は日本食のお店へ。到着したのはなんと「大阪 満丸」。久々の日本のお米やお味噌汁、卵焼きを口にすると、じわーっと身に沁み渡りました。

8日目。最終日。マニラ市内のリサール公園、サンチャゴ要塞、マニラ大聖堂を観光しフィリピン植林フォーラム28の全工程を終えました。出発前は長く感じていた8日間が、瞬く間に過ぎていきました。

植林フォーラム中、常に気にかけてくださった清水所長、山崎所長、すみかさん。

皆さまがいてくださったことで、安全に楽しく活動することができました。

滞在中、衣食住のことや植林活動をサポートしてくださった研修生や地元の方々。

毎日の美味しい食事、そして毎日顔を合わせるたびに交わされる挨拶や手を振ってくださる姿に、心が和み、安心して過ごすことができました。

そして、一緒に参加した各企業の皆さま。皆さまがいたからこそ、より充実した日々になったのだと思います。

今回の経験は、言葉では言い尽くせないほど貴重で、感謝の気持ちでいっぱいです。

この学びを今後の生活や仕事に活かしながら、植林活動がこれからも末永く続いていくよう、自分にできることを精一杯努めていきたいと思います。



ネクスタ株式会社 東京支店  
祐乗坊 貴子

2025年8月23日～30日の8日間、植林フォーラム2025に参加させていただきました。私がネクスタへの入社を決めた理由の1つにこの植林フォーラムがあったので、念願の参加となりました。もともと海外に行くのが好きで、学生時代には3週間カンボジアに行ったこともあります。今回の植林活動というものは、個人の範囲ではなかなか経験できないものなので、ネクスタに入社した際には必ず参加したいと思っていました。

1日目はAM7:00に関西空港へ集合しました。ワクワクした気持ちの反面、数日前にはマニラで日本人が銃殺された事件がありましたので、少し不安な気持ちもありました。空港で大阪支店の澤部さんと初めて対面し、他の企業の皆様とも顔合わせとなりました。今回の参加はネクスタ株式会社が2名、中国電力株式会社グループが6名、東洋紡株式会社が4名、京セラ株式会社が2名、計14名の参加でした。マニラに到着し、夜ごはんは全員で中華へ行きました。フィリピンは食後にテイクアウトの文化があるということで、テーブルにはものすごい量の料理が運ばれてきました。箸を止める女性陣とは裏腹に、フードファイターのような食べっぷりの男性陣に本気で心配した初日でした。（結局滞在の8日間、男性陣はずっと大食い選手権になっており、途中から楽しく眺めていました。）

2日目は約10時間のバス移動を経て、オイスカのアブラ研修センターへ向かいます。夕方到着し、一段落しカードゲームで交流していると、穏やかだった天気があっという間に雷雨へと変わりました。パッと電気が消え、センター初日の夜はキャンドルナイトになりました。灯りは良いものの、断水してしまったので水浴びもできず、トイレも流せず。就寝時は虫対策のため扉はすべて閉めるので、熱中症も覚悟しながら目を閉じました。

3日目の朝目を覚ますと、熱中症になっていないことに安心し、2日目の経験により生活の許容範囲が大分広がりました。さて3日目から植林活動がスタートします。この日は新東洋紡の森へ訪問しました。去年で植林を終え、今回からは新しい森ということで、研修センター所長のデルフィンさんしか知らない道のりを約30分かけて歩きました。ぬかるんだ田んぼ道や水の中を渡るしかない川、草むらの道なき道を登って行き、看板のある場所までたどり着きました。新東洋紡の森ではランブータンやマンゴー等合計300本の苗を現地の皆様と植えました。

植林後は現地の皆様と立ち上げのセレモニーを兼ねた交流がありました。日本人が自分たちの地域にきて、一緒に植林をしたという事実は、現地の皆様にとっても話題性と貴重な体験になると聞きました。今後もタガンタイの皆様とともに、新東洋紡の森を盛り上げていってほしいなと感じました。

4日目AMはCFPの小学校での植林です。たくさんの子供たち、先生、親御さんが私たちを歓迎してくれました。小学校では木に多くのハンモックがかけられており、子供たちがニコニコ揺られていました。聞くとところによると、この小学校には20年前にもオイスカ植林活動で訪問し、その時の木が成長したものと言います。当時一緒に植林をした子供が現在では先生をしていたり、目の前で実際に植林された木が今の子供たちの笑顔に繋がっていることを目の当たりにし、改めてオイスカの活動の素晴らしさを実感しました。今回の植林活動でもカラマンシーの苗を50本、子供たちと植えました。何十年後に、未来の子供たちの笑顔に繋がっていることを願います。PMはネクスタの森へ訪問です。私からしたら大本命の植林活動でしたが、午前のバンでの帰宅時に車酔いになり、お昼はバナナ、味噌汁、緑茶というメニューで午後の植林活動に挑みました。中電グループに私と同年の女性がいたのですが、その子と揃って車酔いになり、皆とは別で日本食メニューを食べたことは、今となってはより絆が深まった理由かも知れません。この日の午後の天気予報は雨。今にも降りだしそうな空模様の中、バンで大分山を登りました。車を降りるとネクスタの森の入り口です。ハイジの丘のような光景に、壮大な森林を感じましたが、怪しかった天気があっという間にスコールとなり自然の怖さも感じました。レインコートを着るまでに全身ずぶ濡れになった私は、大きな音の雷に怯えながら黙々と苗を植えていきました。ゆうかり、ティックトゥリー等合計250本の苗を植えました。ネクスタの森は山登りというより、崖のぼりの植林でした。しかしそこからの景色は絶景で、のびのびと育っている木々を見ると、とても素敵な場所に植林していることに誇らしく感じました。

植林最終日の5日目は、中電グループのマングローブに行きます。この日は衆議院議員の自民党の先生方が3名視察でお見えになれるということで、警備や現地の方々のおもてなしにもより一層気合が入っていました。まずはマングローブ植林ですが、天気は前日と打って変わって快晴。マングローブ植林日和となりました。マングローブの苗は20～30cmほどで、アスパラガスのような見た目です。田植えのような感覚で、合計1000本のマングローブを植えました。世界遺産になっているビガン市内を観光した後は、研修センターで壮大な夕食会です。小学生や大学生がダンスを披露したり、現地の歌うまさんがAIのstoryを歌唱したり、私たちも参加型でダンスを踊ったり、お祭り騒ぎな夜になりました。フィリピンの伝統舞踊や郷土料理、温かな人情に触れ、記憶に残る1日となりました。また研修生を経て日本へ働きにきていたOBOGが10人以上集合してくださいました。ネクスタに来てくださった方々も多く居り、感謝の気持ちでいっぱいになりました。研修センターではたくさんお世話になったジェインさんが、ネクスタの兵庫三田工場で働くことが決まっているということで、実習生の受け入れの循環が続いていくと良いなと感じました。

今回の参加を経て、フィリピンという国のこと、オイスカの活動の意味、人間の温かさ等様々な学びがありました。新しく生まれた価値観やフィリピンでの経験を、これからの日常でも大切にし、活かしていけるように精進したいと思います。最後になりましたが、清水所長、山崎さん、すみかさんをはじめ、多くの方々に支えられた8日間でした。大変お世話になりました。壮大な8日間をありがとうございました。

## 植林フォーラムに参加しての感想



京セラ労働組合  
中馬勝也

今回、植林フォーラムに京セラ労働組合として2名で参加し、改めて森林の大切さと、私たち一人ひとりが果たせる役割について深く考える機会を得ました。植林フォーラムでは、OISCAアブラセンター長やOISCA関西研修センター清水所長、HIT山崎さんから森林の目的と役割についてや、地域との関わりなど、具体的な事例を交えて説明がありました。その中で、木を植えることは単なる環境美化活動ではなく、未来の世代である子供たちに豊かな自然環境を引き継ぐ事と地域のための重要な行動であると強く感じました。

植林は短期間で成果が見える活動ではありませんが、10年、20年と時をかけて成長する木々を思うと、自分の小さな行動が未来を形作る一助になるのだと感じ、心が温かくなりました。

フォーラムを通じて、環境保全は「特別な人」だけが行うものではなく、日常の中で誰もが関わることだというメッセージを強く受け取りました。今後は自分自身も植林活動や地域での活動参加など、できることから積極的に取り組んでいきたいと思います。

## フィリピン植林フォーラム感想文



京セラ労働組合  
長谷川純一

京セラ労働組合は、「子供の森」活動の趣旨に賛同し、これまで継続的に参加してまいりました。昨年はフィリピン・パラワン島の学校を訪問し、多くの子どもたちと交流することができましたが、より深く植林活動に関わりたいという思いから、今回の植林フォーラムへ参加しました。

ツアー参加前は、植林活動とは地球温暖化対策の一環として、一本でも多くの木を植えることが重要であると考えておりました。しかしオイスカ関西研修センターの清水所長から色々とお話を伺い、実際に活動に参加する中で、木が森として成長するまでには20年から30年という長い年月を要し、その間のメンテナンスが極めて重要であることを学びました。今回のツアーでは、植林そのものに加え、日々メンテナンスを担ってくださっている現地の方々と直接交流し、感謝の気持ちを伝えることの意義を改めて認識することができました。

また今回のツアーでは、フィリピンにおけるボランティア活動の歴史的背景とその重要性についても理解を深めることができました。ツアー中には、国会議員の方がアブラ研修センターを突然訪問されるという予期せぬ出来事もありましたが、我々の行っているボランティア活動が日本とフィリピンの絆を深める重要な役割を果たしていることを実感することが出来ました。

最後に、オイスカ関西研修センターの皆様、アブラ研修センターの皆様、HITの山崎様、そしてご一緒させていただいた参加者の皆様に、心から感謝申し上げます。現地では、きめ細やかで温かいサポートをいただき、安心してツアーに参加することができました。また、困難な状況でも前向きに楽しむ若いツアー参加者の皆様からは、物事をポジティブに捉える大切さや、積極的に行動することの重要性を再認識しました。この年齢になってから、こうした貴重な経験をさせていただけたことにも、深く感謝しております。今回得た多くの学びと経験を、今後の自身の糧とするとともに、労働組合内においても共有し、次世代へとしっかりと継承していきたいと考えております。

## フィリピン植林フォーラム報告書



公益財団法人オイスカ 広島支部  
米原 里奈

オイスカ広島県支部兼中国電力グループとして、8月23日から30日にかけて開催されたフィリピン植林フォーラム28に参加しました。これまで旅行で海外に行く経験はありましたが、海外ボランティアの経験はなかったため人生で初めての体験にワクワクする気持ちと同時に、異国の地で初対面の人と一週間過ごすことに対して、不安な気持ちを持ったままフォーラムがスタートしました。

現地での生活は毎日驚きの連続でした。アブラ初日は、研修センターに着いた瞬間激しい雷雨に見舞われ、停電が起きたため懐中電灯やろうそくで過ごしました。日本ではなかなかない経験に最初は戸惑いましたが、しんどい状況の中でも皆で協力しながら対策を考えているうちに、常にポジティブな考えに転換しており、気づけば自然と楽しくなっていました。植林活動では、現地の子供たちや研修生と協力しながら、様々な種類の木を植えることができ、コミュニケーションをとる機会にもなりました。特に印象に残っているのは、マングローブの植林です。今回初めてマングローブを目にし、小さな苗がこんなに大きくなるのか、と感動したことを今でも覚えています。日本に帰国後、今回植えたマングローブ林の航空写真を10年前と現在で見比べてみると、明らかに森が大きくなっていることが分かりました。今回私たちが植えた小さな苗も、私たちと同じように成長し立派な木になることを想像すると、数年後、私も立派な大人になった時にまた見にきたいなと思うと同時に、それまでに立派な大人になれるように頑張ろうと思わせてくれる自己成長を後押しする存在になりました。

フィリピンで過ごす日々は毎日刺激的で充実しており、一週間が本当にあっという間でした。研修センターで食べるご飯は毎日美味しく、現地の子供たちはとても可愛くて、周りにはいつも明るく笑顔が絶えない皆がいて、国を超えた人と人との繋がりを実感した本当に夢のような一週間でした。最初は慣れない環境に不安を感じていましたが、滞在中は不安や寂しさなどネガティブな感情を持つことは一切なく、毎日どの瞬間も楽しい植林フォーラムとなりました。10年後も20年後もフィリピン植林フォーラムが続いてほしいなと思います。一度しかない人生でこのような貴重な体験ができたことを今後の人生の糧にしていきたいです。

最後になりますが、清水所長をはじめとする本フォーラムに関わってくださった全ての皆さまに心より感謝申し上げます。

## 第28回 植林フォーラム



オイスカ関西研修センター  
清水すみか

ありがたいことに、ここ数年続けて参加させていただくことができ、とても嬉しく感じています。

本来は私が皆さんをサポートすべき立場であるにもかかわらず、たくさん助けていただき、本当に嬉しく、心から感謝しています。

今回の植林で特に印象に残ったのは、水と電気のありがたさを深く痛感したことです。これまでも停電の経験は何度かありましたが、水と電気の両方が、しかも半日以上にわたって使えないという状況は、私にとっても初めてのことであったように思います。皆様には大変ご不便をおかけし、申し訳ございませんでした。そのような中、アブラセンターの所長デルさんと研修生の皆さんが、早朝から水を運んでくださり、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

植林活動では、CFP・中国電力ユニオンによるマングローブの植林では天候にも恵まれ、無事に作業を行うことができました。一方、ネクスタの森では久しぶりの大雨の中での植林となり、少し物足りなさを感じる結果となってしまったことが残念でした。また、今回の植林に際しては横断幕の準備が行き届かず、ご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。

新しい東洋紡の森では、事前にデル所長から「すみか、大丈夫？できる？」と声をかけられていたこともあり、内心とても不安でした。ですが、無事に登ることができ、皆さんの写真も撮ることができて、本当に良かったです。ただ、雨の影響で道はぬかるみ、川を渡る場面もあり、想像以上に大変な状況でした。

ネクスタの森や東洋紡の森では、所々に歩きやすい工夫が施されていたり、手作りの手すりが設置されていたりと、細やかな準備がされていることに気づきました。デル所長や研修生の皆さんが心を込めて整えてくださったのだと思うと、感謝してもしきれないほどの思いです。

そして今回も、アブラセンターでの食事は大変美味しく、心も体も癒されました。今回はいつも以上に忙しい場面が多かったにもかかわらず、デル所長ご夫妻や研修生の皆さんには多くのご配慮をいただき、本当にお世話になりました。

来年も、そして再来年もこの植林フォーラムが継続されるよう、私たちスタッフ一同、力を尽くしてまいります。

改めまして、本当にありがとうございました。

## 第28回植林フォーラムを終えて



オイスカ関西研修センター  
所長 清水利春

8月23日関西空港へ参加者集合、17名の参加となり、出発しました。自己紹介は、初日の夕食時に行い、殆どが二十歳代の若者でした。

24日は午前中アブラ州のパブリックマーケット視察、現地の食料品又生活雑貨の店を見て回りました。アブラ州知事は不在の為表敬訪問はキャンセルになった。午後は東洋紡の森での植林、新規に始まったところで、多くの住民と一緒に植林を行った。25日は午前中、子供の森支援校での植林、多くの子供たちと植林する事が出来た。午後はネクスタの森での植林だったが、私は日本から3名のオイスカ議員連盟の先生方（谷公一衆議院議員・井上信治衆議院議員・瀬戸隆一衆議院議員）が現地視察にられました。イロコス州では、カブガオ町に有るオイスカマングローブ植林地（中国電力労働組合の森）そしてカブガオ町舎訪問歓迎を受けました。又州政府では副知事が庁舎入り口で先生方3名を出迎えていただき、歓迎していただきました。

いよいよアブラ州へ、アブラ州知事表敬を行い、オイスカ子供の森支援法視察ムデイ小学校を訪問子供たちの歓迎を受けられ、子供たちが植えた木の成長を見てもらいました。小学校訪問を終えオイスカアブラ研修センターの視察、センター内を見てもらい、植林ボランティアとの合同歓迎会、子供たちによる歓迎のダンスなど大いに盛り上がった。衆議院の先生方又ボランティア植林に参加された方々に心からお礼を申しあげます。

今度の28回植林ツアーは議員の先生方の訪問のあり、あわただしい日程になってしまいました。しかしフィリピンの山奥まで視察にられた先生方は、今までにおられません。今後もグラスルートの交流を続けてまいります。

今度の28回植林フォーラムでは、皆様方のご協力により怪我や病気になる方も出ず。無事に終わる事が出来ました。皆様方に心から感謝いたします。

最後にこの活動が出来るのも、オイスカ広島支局・中国電力労働組合・東洋紡績労働組合・初めて参加された京セラ労働組合・等多くに方々のご支援によるものです。今後ともご支援ご協力をお願いいたします。

最後に、旅行社のヒットカンパニーのご協力ご支援を忘れる事は出来ません。

## 「フィリピン植林フォーラム 28th」を終えて



(株)ヒットカンパニーリミテッド  
添乗員 山崎 聡

「第28回 フィリピン植林フォーラム」にご参加頂きました皆様、大変お疲れ様でした。今年は基盤参加労働組合、東洋紡労働組合の「新 東洋紡の森」オープニングセレモニーや記念植樹、オイスカ議員連盟の国会議員視察や国会議員歓迎会など通常のツアーに無いイベントやプログラムが多々ございました。また研修センターでは序盤より長時間の停電や水が出ないなどシャワー、トイレ事情でも大変ご不便をお掛け致しました。改めてお詫び申し上げます。

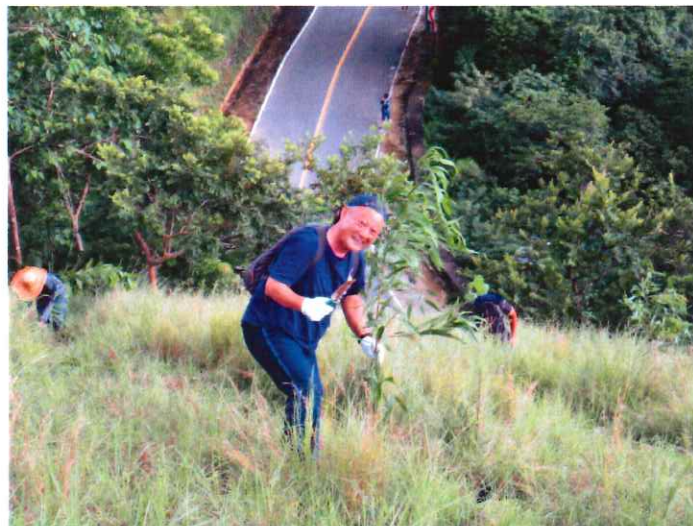
「新 東洋紡の森」では川を渡り濡れ、ネクスタの森ではスコールで濡れ、中電マングローブの森では海の中での作業で濡れ、今回は終始濡れ濡れツアーでした。ただ雨季にも関わらず天気も良く洗濯物が良く乾いていたようで内心ホッとしておりました。初めての植林活動の方も多く居られましたが現地の方、現地研修生と協力し全ての苗木を一本も無駄にする事無く丁寧に植樹頂きました。これからどんどんと大きく立派に成長する事願って止みません。また、研修センターでの食事では皆さんの食欲にはびっくりしました。過去一番の食欲旺盛メンバーではいかと思っております。しっかり食べてしっかり休み元気に全プログラム完遂有難うございました。

私においては、このツアーの手配を始めた時は20歳代でした。2005年に初めて添乗員として同行したのが30歳代で、今回は定年近くなった57歳。年月の過ぎるのを早く感じるツアーです。そろそろ山登りも息が上がる様になってしまいました。ヤバイです。

植林中には虫さされ等はございましたが、重大な怪我、病気も無く全員無事にご帰国され一安心しております。毎回ながら各活動にあたり、現地との綿密なスケジュールを多忙な中でご調整頂きましたオイスカ関西研修センター清水所長、アブラ州到着から私たちに完全なサポートをして頂いたアブラ研修センター所長のデルさん、現地にてご尽力頂いたオイスカ現地スタッフや支援者の皆様にもこの場をお借りし深くお礼申し上げます。皆様のご支援を賜りこのツアーが来年以降も催行出来ますよう引き続きどうぞ宜しくお願い致します。

以上

## 植林ツアーに参加して



特別参加

内田 千秋

「減る森林 人類試す ～森林を保全することは地球温暖化対策だけではなく、生物多様性の確保や水の浄化につながる。森林の減少傾向を食い止めるために、いまある森を保護し、植林などで増やす必要がある。（抜粋）～」帰国翌日の日経朝刊の一面記事です。この記事を読んで、今回の植林ツアーで、少しでも実践できたかなと感じました。

8月一か月、フィリピンのオイスカアブラトレーニングセンターに滞在しました。1週目は高校生のスタディツアーに同行、2、3週目はセンターの研修生に向けて日本語授業、4週目は「オイスカ関西グループ」による社会人植林ツアーを体験。高校スタディツアーでは山の植林1回、海岸汽水域でのマングローブ植林1回、大学での交流活動2回を実施。「オイスカ関西グループ」による植林ツアーでは、山の植林2回（東洋紡の森、ネクスタの森）、小学校での学校林植林1回、マングローブ植林1回（中国電力サポートのCFP）と様々なタイプ、場所での植林活動でした。次は京セラの森ができるかもしれません。植林の回数が高校生の2倍です。

高校在職時、SDGs課題探究で熱帯雨林の調査、森林保護活動に関わってきました。オイスカ関西研修センターとのコラボで「高校生フィリピンアブラスタディツアー」を実施。探究活動で植林は国内外で何度も体験しましたが、今回の「オイスカ関西グループ」の植林はなかなか濃厚でした。

高校生ツアーでの植林では山を少し登るとすぐに植林場所に到着、山の斜面も比較的平坦で植林しやすい状況でしたが、植林ツアーでの植林は様子が異なりました。足元が滑る急斜面を上り、膝までつかりながら川を渡りやっと植林地に到着したと思いきや、急斜面を登りながら穴を掘り植えていく作業はハードなものでした。現場に向かう山道は一部竹で手すりが設置されていたり道が造られていたりして、通り道は確保されていました。関西グループがセンターに来るまでに、デルさん（アブラセンター所長）からこの植林ツアーのために5回以上研修生とトラックで現場へ行き準備してきたという話を聞いていました。それでも植林場所までの山登りや、強風、大雨という悪天候の中での急斜面での植林は気合いが入りました。マングローブ植林では、高校生が植林した海岸域を3週間後に再訪し、その先を植林しました。同じ景色の続きを植林したことで達成感を味わいました。地元の方も私のことを覚えていて、「次もまた来てね」と喜んでいただきました。

4社から集まった男女合わせて14人のグループの皆さんが、フィリピンの地元の子どもたち大人たち、オイスカ研修生と一緒に山に登り海に入り、一生懸命植林されている姿を見て感動しました。この植林ツアーを通して、地球環境はみんなの努力で守り抜くことができると確信しました。